

# アイデアを形に

～ ATP 顛末記 ～

A new approach to Astronomy from rest room

Astronomical Toilet Paper(ATP)は、天文学の普及を目指して作られたトイレトペーパーです。この ATP は、(1)計画を推進するメンバーを集め、(2)資金問題をクリアし、(3)効果的な宣伝活動を行ったことによって、広く世間一般に認知されました。今回、ATP を製作するにあたってどのようにしてこれらのボトルネックをクリアしたかについてまとめ、そのノウハウを共有したいと思います。

We made the Astronomical Toilet Paper(hereafter “ATP”) to spread knowledge of Astronomy. Using ATP, you can literally touch latest Astronomy at rest room. In this paper, we will show you a making process of ATP. Concretely speaking, we will tell you how we recruited members, how we secured the funds, and how we advertised the ATP. We hope our know-how of making ATP profits you.

準会員(東京大学大学院理学系研究科) 高梨直紘  
ATP 製作グループ  
Naohiro Takanashi(University of Tokyo), ATP-WG



製作された Astronomical Toilet Paper

## 1. はじめに

Astronomical Toilet Paper, 略して ATP。ATP は天文学の知見をトイレトペーパーにぎゅっと詰め込み、皆様に自宅で、職場で、出先で宇宙について思索にふける時間を提供しようという試みです。2005 年 2 月現在、試作品は予定の 100 個を大幅にオーバーし 300 個以上を配布させていただきました。アイデアを形にするまでには手間がかかります。しかし、かかる手間をゼロにすることは出来ませんが、大幅に節約する事が可能であるということを我々は ATP 製作を通じて学びました。この ATP がどのようにして出来たのか、その過程を報告することによって我々の学んだ事を共有できればと思います。

## 2. アイデアを育てる

ATP のアイデアが出たのは、2003 年の冬、JPS 佐賀大会での雑談の中ででした。これまでにない天文学の普及方法はないか？という話の中で我々が思いついたのは、トイレトペーパーを使う事。トイレで天文学、この非現実的なアイデアに気をよくした我々は、早速どのようにしたら実現が可能かを探ることにしました。

まずはどんなモノを作ったら楽しそうか、というネタ作りです。機会があるごとに、学生、プラネや科学館のスタッフさん、天文ファンな友達、天文なんてどうでも良いと思ってる友達などなど、様々な人にどんなのだと面白そうか聞いて回りました。その結果、天の川マップ、天文学的な星座解説、最新天文ニュース、世界の望遠鏡紹介などなど色々な案が出ましたが、最初は天文学の面白さを伝えたいという ATP のコンセプトを強調すべく、ハードな内容にしようということになりました(イメージとしては、学研ひみつシリーズの「豆知識」のノリです)。

平行して行ったのが、前例がないかの調査です。色々あたってみたところ、「天文学」では前例がないことがわかりました。同様の試みとしては、地質系の博物館で販売されている「地球史トイレトペーパー」なるものがあることもわかりました。これらの前例も参考にしつつ、どんなトイレトペーパーにするかのアイデアを練りました。

トイレトペーパーにオリジナルの印刷を施してくれる製紙会社もすぐに見つかりました。指定されたフォーマットで原稿を作成し、入稿すればすぐに製作してくれる簡単なシステムであることがわかりました。幸い、天ブ

方にはデザインを専門にしているメンバーもいましたので ATP 製作班に加わって頂きました。これで、全てを ATP 製作班で製作して最後の印刷だけをお願いすれば良い事になりました。

しかし、ここで問題が浮上します。お金の問題です。

### 3. 資金の調達

考えてみれば当然の話ですが、たかがトイレットペーパーとはいえ、オーダーメイドで印刷してもらうわけですから手間賃がかかります。値段は明かしませんが、製作最低量である 100 個では、1 個あたりの製作単価はラーメン 3 杯分程度でした。我々はラーメンで生き長らえている貧乏学生ですので、ラーメン 3 杯分のトイレットペーパーは例え作っても、使えません。これには弱りました(注)。

最初は寄附を集める事を考えました。しかし、ATP がどんなものかを見せて説明するならまだしも、原稿だけ見せて寄附をお願いするのには無理があります。アストロアーツの「星ナビ」に毎月連載させていただいている我々のコーナーでも ATP 計画について触れてみましたが、面白そうという反応はいただいたものの、スポンサーが出現する事はありませんでした。そんな時に目にしたのが、日産科学振興財団の研究助成先募集のお知らせでした。

ご存じの方も多いと思いますが、日本では研究活動に対し数多くの団体/財団が助成金を交付しています。文部科学省など公的機関が主催するもの他に、一般企業が基金を拠出している財団など私的機関が主催する研究助成があります。これらの多くの財団の中で、日産の助成財団が“理科教育活動に対する助成”先を募集していたのです。内容を調べてみると、大学院生でも応募出来ることわかりましたので、早速“トイレットペーパーを作りたいんですけど、資金援助してくれませんか？”と温めていた計画案と共に応募してみました。応募した段階では、この ATP という計画を目にした審査員が笑って、コメントでもよこしてくれれば大成功くらいの気持ちだったのを覚えています。

そして、応募から3ヶ月後の2004年10月、助成決定通知が我々の元へ届きました。

注...自腹でなければ使えます。

### 4. 宣伝活動

試作品が完成したのは 12 月の半ばでした。この試作品を多くの方に手にしていただくべく、早速宣伝活動に移りました。ターゲットは 3 種で、(1)プラネ・科学館など天文関係者、(2)一般の天文ファン、(3)マスコミです。天プラや JPS などの ML を用いたインターネット上での宣伝、個人的なつながりのフル活用、人が集まる場に顔を出し積極的な売り込みなどを行いました。モノがモノだけに宣伝活動は非常に順調で(ATP を見せると大抵の

方には興味を持っていただけます)、中でも興味を持っていただいた新聞の記者さんには新聞記事にしてもらいました。この新聞の記事を元にネットで話題となり、我々のサイトへのアクセス数が普段の 20 倍程度まで急増したのは予想外の驚きでした。WEB に試作品配布希望用の窓口を設けたところ、あっという間に予定していた 100 個を配布し終わりました。

### 5. アイディアを形にするには

アイディアを思いついてから足かけ一年で ATP は世に出ることが出来ました。要旨でも触れましたが、ATP が世に出られたのは次のようなボトルネックをクリアできたからだと考えています。すなわち、(1)計画を推進するメンバーを集められたこと、(2)資金問題をクリアできたこと、(3)効果的な宣伝活動を行えたことです。我々が強調したいのは、皆さんが温めているアイディアも、上に述べたボトルネックをクリアすれば比較的簡単に形にできるのではないかということです。それぞれについてどのような解決法があるか、我々はどうのように解決したかをまとめてみたいと思います。

#### (1)人の問題

一緒に計画を推進してくれるメンバーを集めるのは、アイディアをより魅力的なものにしたり、計画を進める上での負担を減らすという意味でも重要です。我々が特に重要でかつ難しいと感じたのは、専門を異にするメンバーを集める事です。ATP の場合、コアとなったのは 4 人でしたが、2 名は内容面を、1 名は広報を、そして残りの 1 名はデザインを中心に行いました。幸い、全てのメンバーを天プラ内で調達することが出来たのですが、このようなボランティア的な活動(=ただ働き)において、コンセプトを理解しイメージ通りにデザインしてくれるデザイナーさんを仲間にするのは一般的に難しいと思います。常日頃から、天文に興味を持つアーティスト、デザイナー(のタマゴ)とつながっている必要があるそうです。皆さんの館に出入りしているお客さんやボランティアさんで、デザインが出来る人は大変貴重だと思います。

#### (2)資金の問題

アイディアがあっても、それを形にするにはお金がかかるものです。この資金がネックとなってアイディアを実現できていない方には、研究助成金に応募することを強くお勧めします。日常的に理科教育に関っているが財政的には決して恵まれていないプラネタリウム業界は、まさに財団の求めている投資先です。応募するための資格を学芸員や教員に限定している場合も多いですが、その場合は応募資格を持った人を代表にして応募すれば問題なしです。プラネタリウムのスタッフさんが応募できる助成金リストや応募指南の作成などを JPS が行えば、全体の利益につながるのではないかと思います。

### (3)宣伝の問題

せっかく形にしたアイデアも、宣伝をして多くの人に知ってもらわないと意味がありません。私たちの例で言えば、最も効果のあった宣伝は前述した通り、新聞に掲載されたことでした。これは個人的に記者さんに売り込んだ結果なのですが、今回のように個人で売り込むことがいつもできるとは思えません。例えば JPS としてプラネ関連の話題を集め、週に 1 回くらいのペースでメディア向けにメール配信したりすれば、個人で売り込むよりも効果があると思われます。各地のプラネタリウムで行われている様々な企画は、十二分にメディアに取り上げられる価値があると考えています。あとは、メディアにいかにもうまくアプローチするかではないでしょうか。

### 6.最後に

我々はATPの製作を通じ、多くのことを学びました。紙面では十分に伝えきれなかったと思いますが、ATP 製作を通じて得た最大の成果は「アイデアは実現できる」という自信だったと思います。我々の目的は決してトイレットペーパー作りではありません。様々なアイデアをもってして、より天文ライフを楽しむことです。今後もATPに続くアイデアをどんどんと形にしていきたいと考えています。本稿がきっかけのひとつとなって、皆さんの持つより面白く楽しいアイデアが形になっていけばと思います。

#### [補足説明]

天プラは、“天文学の普及”を目標に様々な分野の人間が集うネットワークです。主にメーリングリストを通じて活動しています。興味をお持ちの方はアクセスしてみてください。ATP についての情報もこちらにあります。

<http://www.tenpla.net>



チリの砂漠に連れて行かれた ATP